

114
A3083

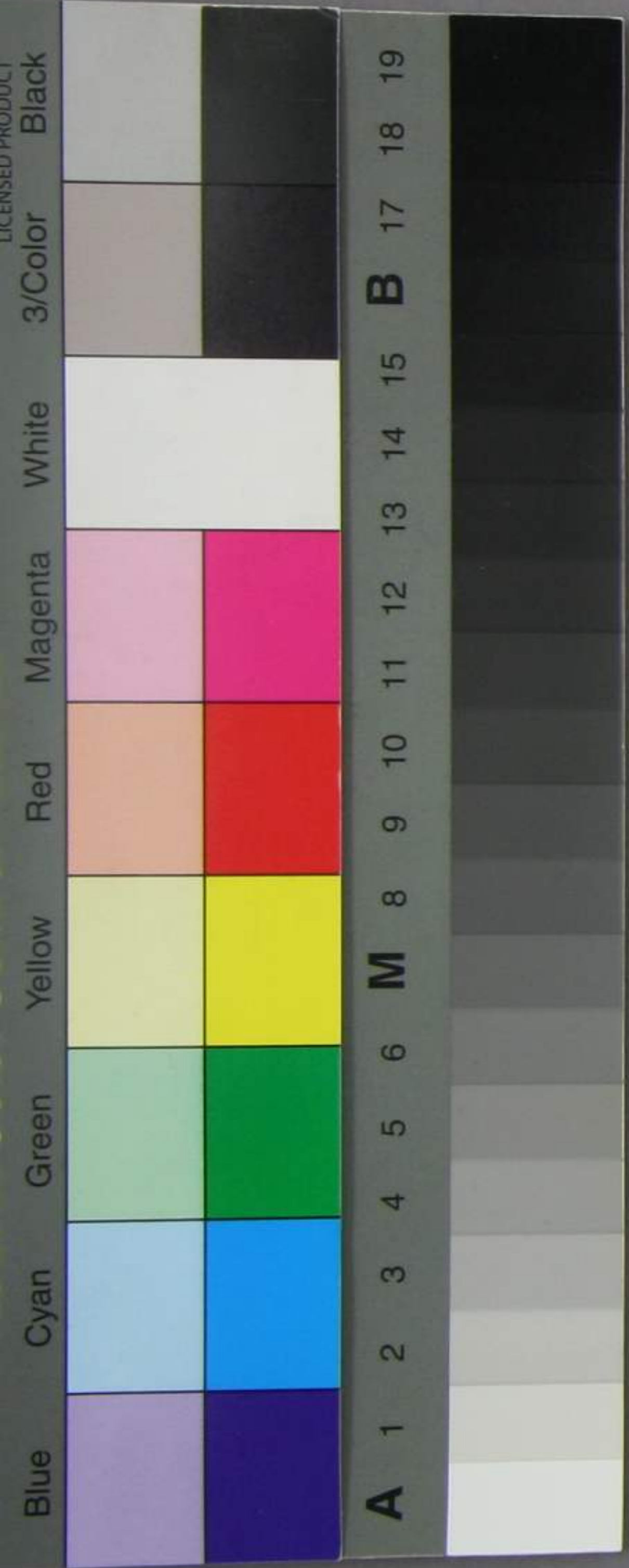


銀價高低論

去五月十五日附ヲ以テ閣下へ送呈セシ手稿ニ依リ今亦謹テ爰
 ニ聊卑見ヲ呈スル所アラントス
 余カ叶五日附ノ手稿ニ開陳セシ卑見ト今日ノ現状トハ尔来今
 日ニ至ル迄ニ只僅々相違セシ處アル而已ニシテ其本体ニ至リ
 テハ別ニ変更セシ所ナシ
 蓋シ目下ノ状況ニ由レバ銀價ハ其價格今ヨリモ下落セサル而
 已ナラス稍且ツ遠カラズ騰貴セサルベカラガルノ色アルニ似
 タリ
 抑モ余カ斯ル説ヲ吐露スル所以ハ固ヨリ百般実事ノ目前ニ形
 ハルモモノアリテ然ルナリ依テ余ハ逐一其實事ヲ論セン

鬼頭悌二郎

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



先づ第一ニ日耳曼國ニ於テハ曾テ察銀ノ率ヲ行ヒ銀貨ノ合法
貨幣タルヲ止メシカ故ニ其影響施テ銀貨ヲ下落スルニ及ヒ其
甚クシキ之レヲ驚慌價視スルモ不可ナカラシムルニ至レリ抑
モ其價格ノ斯ノ如クナル所以ノモノハ他ナシ畢竟銀ノ額量ヲ
積リ過セシニ由ルモトス然ルニ會マ補助貨幣發行ノ率アリ
巨額ノ銀ヲ要求セシカ故ニ其見積リ過セシ所トハ大ニ相違セ
リ
爰ニ千八百七十六年以來日耳曼國ニ於テハ歐洲大陸ハ勿論
亦最モ巨額ノ銀ヲ消費スル國タル印度ハモ引続キ其需ニ應シ
銀ヲ賣渡セシカ故ニ其所持ノ銀大ニ減少シテ今ヤ僅ニ尙千三
百萬ポンドノ殘額ヲ存スル而已ニ至レリ然ルニ日耳曼政府ハ
右ノ内ヨリ凡ソ五百万ヲ新補助貨幣鑄造ノ用途ニ供シテ以テ目
下通用ノ外ハ餘額ニ代用シ將來外ノ銀貨ノ通用ヲ止ムル

ノ廟議アリトス

此一舉ヲ世人ノ知ル所トナリシヨリ銀價ノ下落爰ニ底止スル
ニ至レリ然リ而シテ今ヤ全世界中何地モ貿易改良ニ赴クノ勢
アルヲ以テ視レバ銀價益々騰貴スルアルハ期スヘキナリ
伊太利國ノ如キソノ國ハ所謂羅旬貨幣聯邦ノ同盟國ナリ然ル
ニ今度銀貨二千五百万フランクノ額ヲ鑄造スルノ特權ヲ得
タリ抑モ伊太利國ニテ斯ク銀貨ヲ鑄造スル所以ハ之レヲ紙幣
ニ代用スルカ為メニシテ即チ尙フランクト貳フランクト此等
兩種ノ紙幣ニ就キ其同額ヲ引上ケント欲スレハナリ苟モ伊太
利國ニシテ斯ク鑄造セント欲セハ餘儀ナク其用ニ供スヘキノ
銀ヲ市場ニ購買セサルベカラス亦其外ニ伊太利國ニ於テハ曾
テ佛國ニ賣渡セシ巨額ノ補助貨幣ヲ同國ヨリ買戻スベキノ約
ヲ取結ヒタリト云フ

ローマニ、英國ニ新候國ボルガリア國西國ノ如キハ何レモ全
銀兩本位ノ制ヲ施行スル國ナレバ銀貨流行ノ地ナリトス然ル
ニ響キニ西國トモ軍用ノ費莫大在ルアリテ為メニ西國ヨリ巨
額ノ金銀ヲ派出セリ是レ此等西國ガ今般金銀ヲ買入ル、源因
トナリシモノナリ

余カ探知セシ所ニ由レハ此等西國ノ買入レ高ハ未タ其需求ニ
適應スルニ足ラサルモノトス然リ而シテ此等西國ト改洲西部
トノ貿易ハ中々少ク額ニ止マラガレハ此等西國ノ穀類ヲ輸出シ
資本ヲ要スヘシカレハ此等西國ニ於テハ巨額ノ穀類ヲ輸出シ
テ以テ猶ホ更ニ銀貨ヲ買入レルトブル紙幣ヲ其最前輸入シ来
リレ回(露回ヲ云フ)へ返付スルノ期ハ近キニアルベシ
又澳回カ銀ヲ買入レテ止マサルノ實ハ銀ノ真價ヲ厚フスルニ
至レリカレハ斯ノ如キ新法ヲ用ヒ来リシカ為メニ今度澳回洪

葛利公債(過半ハ銀貨ヲ以テス)新募スルニ當リ陸統銀價ノ相
場騰貴スルヲ以テ具發行上ニ於テ大ニ益セシ所アリタリ
露回ノ如キハ近來其發行紙幣ノ巨額ナルヲ深ク憂アルノ色ア
レハ年々相当ノ銀貨ヲ發行代用シテ以テ同額ノ紙幣ヲ引上ケ
ンテ欲スルノ念アルヤ昭々タリ露回ノ如キ若シ幸ヒニ國家
事ナキノ日西三年ニ涉ルアラハ其財政改良ニ就クソルハ期ス
ヘキナリ然リ而シテ倫敦市場ニ公債ヲ募集スルアルニ於テハ
露回ノ輸入税ノ過半ヲ率ケテ悉ク紙幣償還ノ資金ニ充テ、以
テ財政世界ノ信用ヲ得ルニ至ルハ易キ而已
以上ハ只歐洲ノ現状ヲ開陳セシ迄ニ過キス然ルニ高ホ亦第一
ニハ歐洲ニ於テ銀價下落セシ以來印度ノソノ国内ニ銀ヲ輸入
スルノ額痛ク減少シテ今日迄ニ僅々飢饉又ハ戦争等災害ヲ被
ムラサル輸出貿易超過ノ年間ニテモ猶ホ印度國ノ銀貨ハ其國

万般ノ順易用ニ供スルニ足ル丈ノ額ニ欠乏ナリシ程ナルト是
レナリ
斯ノ如ク印度ニ於テハ近年其邦内ニ銀ヲ輸入スルノ高前數年
ノ比ニ至ラハリシ而已ナラス猶且ツ今現ニ營業セル印度國ノ
諸銀行等ハ皆此米猶ホ銀價ノ下落アランヲ恐レ千八百七十
七年ト七十八年トノ兩年間ノ時價ヲ以テ其所持ノ残銀ヲ海外
ニ送出セシカ故目今ハ甚タ僅少ノ正金ヲ備ヒテ以テ其業務ニ
從事スルモノナリトス
然ルニ余カ已ニ開陳セシ如ク銀價ノ下落ハ爰ニ底止レ最早此
上ニ減落スルヲナキハ倫敦ヨリ印度ニ花振出ス為換相場ヲ以
テ充分之レヲ証明スルニ足レリ
目下印度宛テノ為換相場ハ志ハビニ付志ハ片半ナリ然ル
ニ千八百七十八年ニハ一志七片ノ為換相場ナリシ

米國ヨリノ報ニ由レハ載セテ米國ハナンガト并ニガムストック
ノ兩銀山ヨリノ産出額アリト雖是レ余カ信ヲ置クアタハサ
ルモノナリ
實ニ米國諸理財家ノ説ニ依レハ目下銀價ハ千八百七十六年ヨ
リモ充分ニ割下リニ居ルモノトナス
余猶ホ一步ヲ進メテ米合衆國ニ於テ巨額ノ銀價ドルヲ補
助銀貨トヲ鑄造スルノ果シテ功ヲ奏スヘキヲコト願慮スルハ
米國ノ産銀ハ過半米國ノ要スル所トナルヘシ果シテ然ラハ其
海外ニ輸出スヘキ高ハ之レカ為メ減少セラル、ナルヘシ
余試ニ東洋諸國ノ貿易表ト改洲大陸ノ貿易表トニ由リテ現ニ
銀價ノ變動如何ナリシヲ對照比較スレハ殆ト何レノ場合ニ於
テモ騰貴ノ色銀市ニ滿テ本年初頭以來ヲ除ケハ銀價高貴ノ色
アルヲ知ルナリ

因是觀之余思フニ今巨額ノ銀ヲ買入ル、トアラハ頗フル銀價
ノ騰貴ヲ采ストアルニレトス其然ル所以、モ、ハ今ヤ銀ノ貯
蓄額ハ左ニテ多カラカルカ故ニ苟モ巨額ノ買入レ等アレハ忽
チ衆庶ノ注目ヲル所トナリテ以テ忽チ騰貴ヲ来スハ必然ナレ
ハナリ
日耳曼國ニ於テ此上銀ヲ販賣セサルヲ公然世ニ告クルヤ否
ヤ銀價一層騰貴スルハ毫モ疑ヲ容レス然ルニ亦銀貨派用諸國
ノ輸出貿易隆盛ナルニ至ラハ俄令ヒ若シ日本支那及ヒ印度ノ
如キ其貿易ハ一兩年間預期スル如ク満足ノ狀況ニ至ラサルト
モ銀價ハ毫モ下落セシテ却テハ分乃至是割ノ騰貴ヲ来スハ
期シテ俟ツヘキ而已
蓋シ今日ノ久シキニ至ル迄僅ニ千八百七十八年ト本年ノ歲初
メトチ除ケハ目下ノ如ク銀價ノ下落セシトハ決シテ之レ勿リ

言
レトス是レヲ併セラ爰ニ一言ヲ呈スルハ有益ノトナルベシ謹
言
千八百七十九年十月十八日

五横濱
ダブリユー、カーゲル

